2018 年、ユニセフは戦略計画の目標分野 1 に掲げられた成果を達成するべく、126 カ国で活動を展開しました。

ユニセフはパートナーとともに以下の支援を行いました。

- 新生児および妊産婦の死亡率が高い国において保健施設で2,700万人の出生を支援
- 6,550万人の子どもに、ジフテリア、破傷風、百日咳のワクチンを含む5種混合ワクチンを3 回投与
- 肺炎の疑いのある子ども550万人に抗生物質を投与
- 紛争や災害の影響を受けた47万5,000人以上の子どもに乳幼児期の子どもの発達（ECD）プログラムを提供
- 73カ国で重度の急性栄養不良に苦しむ子ども400万人以上に救命治療を施し、その82% が完全に回復
- アフリカの20カ国で、現場で即時に診断できる新しいHIV 試験プラットフォームを提供

目標分野 1 の総支出：21 億米ドル

右：ユニセフが支援するバングラデシュの新生児特別治療施設で、風邪、眼感染症、黄疸の治療を受けている幼い息子のアリフちゃんを抱くタニア・ベグムさん。

© UNICEF/UN0233018/Mawa

目標分野 1：
すべての子どもが命を守られ健全に発育すること

多くの子どもたちが、これまで以上に生きるチャンスを手にしています。

2000 年から 2017 年にかけて、新生児死亡率は 41% 減少しました。出生後死亡率は 51% 減少し、1 歳から 4 歳の子どもの死亡率は 60% 減少。5 歳から 14 歳までの子どもの死亡率は 37% 減少しました。

しかしこうした目を見張る前進にもかかわらず、いまだ多くの子どもたちが成人を迎えることなく、その人生の幕を閉じています。
2017 年には、推定 630 万人の子どもが主に予防可能な原因によって亡くなりました。

これは、5 秒に 1 人の子どもが命を落としていることを意味します。

すべての子どもが命を守られ健全に発育するために、ユニセフは総合的な支援をしています。その一環として、ユニセフは地域レベルでのプライマリ・ヘルスケア（人間の基本的な権利である健康の格差解消を目的として、医療、予防活動、健康増進活動といった総合的なケアを地域が主体となって行うこと）の活動を拡大し、政府や他のパートナーとの協力を通じて、妊産婦、新生児および小児の健康、栄養、HIV 予防と治療、乳幼児期の子どもの発達（Early Childhood Development：ECD）における成果の改善に取り組んでいます。

@UNICEF アドボカシー 2018: #EveryChildALIVE

120 以上のユニセフ現地事務所と、少なくとも 10 カ国のユニセフ協会がこの世界的なキャンペーンの立ち上げを支持しました。キャンペーンは、子どもの生存に関する新たな報告書と、新生児の命を救うための予算拡大を求める史上初の世界的な請願を特長としています。このキャンペーン下で、政府、アフリカ連合などの政府間組織、およびLIXIL や武田薬品などの世界的な民間企業のパートナーが、新生児の健康の改善という目標に向けて一丸となって活動しました。

保健

地域社会の強固な保健システム内で実行される、総合的なプログラムと生涯を通じた支援であるプライマリ・ヘルスケアこそが、ユニセフ戦略計画の目標分野 1 と SDGs（持続可能な開発目標）の目標 3「すべての人に健康と福祉を」を達成する最善の方法であるとユニセフは考えています。2018 プライマリ・ヘルスケアに関する国際会議（The 2018 Global Conference on Primary Health Care）は、全世界の保健医療サービスと SDGs を達成する手段としてプライマリ・ヘルスケアを実施していくことをあらためて確認しました。ユニセフと世界保健機関（WHO）は現在、プライマリ・ヘルスケアを強化するための世界的な取り組みを共同で主導しています。

2018 年、ユニセフは、妊産婦と新生児の死亡率が高い 23 カ国に対して、妊産婦および新生児のケアの質を向上させるための支援を提供しました。16 カ国でカンガルーケア（早期の母子接触）の実施状況を調べるモニタリングが始まっています。カンガルーケアは、肌と肌の接触によって早産児の生存を助ける方法です。さらに、ユニセフは母親と子どもを対象とした 3,355 の医療施設で水と衛生サービスの向上を支援しました。またユニセフは 6 カ国で、出産年齢の女性 850 万人に妊産婦・新生児破傷風に対する予防接種実施を支援しました。とりわけケニアでは、この病の罹患者がゼロになりました。

2018 年には、地域の保健員 6 万人が、ユニセフが支援する総合的な患者ケアに関するスキル向上プログラムに参加しました。これは、前線にいる保健員を通じ、最も取り残された子どもたちに保健ケアを提供する取り組みです。また、マラリア予防のため、ユニセフは人道危機下にある 11 カ国に暮らす 150 万人を含む、17 カ国の 2,830 万人に殺虫剤処理を施した蚊帳を配布しました。

予防接種

直近でデータが入手可能な 2017 年において、ユニセフとパートナーは重点 64 カ国で推定 6,550 万人の子どもへの 3 回分の 5 種混合ワクチン接種を支援しました。世界的にポリオがほぼ根絶されたにもかかわらず、アフガニスタンとパキスタンでは依然として野生株ポリオウイルスの感染が続いています。

右：アフガニスタンで保健員によるポリオ予防接種を終えて風船をもらって喜ぶ男の子。予防接種を受けた証に、左手の小指がインクで染められています。

© UNICEF/UN0202777/Hibbert

@UNICEF パートナーシップ 2018：保健

日本政府は 2018 年も引き続きユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）への力強いアドボカシー（政策提言）を続けています。総額 1,150 万米ドルの資金拠出とユニセフからの技術支援により、日本は紛争後の国々における保健情報管理システムの改善に取り組んでいます。この取り組みを通じ、3 年以上にわたって、紛争後の国々に暮らす 220 万人の妊産婦と 5 歳以下の子ども 350 万人に対する必須の医療サービスの提供を支援します。

韓国政府もまた、母親と子どもの健康管理の改善に献身的に取り組んでいます。2018 年韓国は活動の一つとして、ネパールの妊産婦、5 歳未満の子ども、および新生児が質の高い医療サービスを受けられるようアクセスを改善し、公平なサービスの提供を支援しました。

ドイツ政府は、アフガニスタン、ナイジェリアおよびパキスタンにおけるポリオ対策プログラムを継続するため、年間 1,160 万ユーロを拠出するなど、寛大な支援を行いました。このパートナーシップによって、追加の予防接種活動、ワクチン調達、および技術支援のための資金が提供されます。

ユニセフと戦略的パートナーである米国疾病管理予防センター（United States Centers for Disease Control and Prevention：CDC）は、ポリオを根絶させ、はしか、風疹などのワクチンによって予防可能な疾病の管理を加速させることを目指して長期的な同盟を結んでいます。2018 年、ユニセフと CDC は、国、地域、そして世界レベルで予防接種プログラムを強化すべく、5 年間にわたる 1 億 8,000 万米ドルの合意に調印しました。

また、国際ロータリーは 2018 年、ユニセフのポリオ予防接種活動に対するアドボカシーと寛大な支援を通じて、「世界ポリオ根絶推進活動」（GPEI：Global Polio Eradication Initiative）における主導的役割を引き続き果たしました。

1988 年には 35 万件みられた野生株ポリオウイルスによる麻痺は、2018 年は世界でわずか 33 件の報告に留まっています。同様に、国際キワニスは、妊産婦・新生児破傷風の根絶のための取り組みにおいて主要なパートナーとしての支援を継続しました。

また武田薬品工業株式会社は、2018 年にユニセフとのパートナーシップを継続し、命を脅かされている人々の健康を守ることに貢献しました。2017 年からのベナン、マダガスカル、ルワンダにおける 5 年間のプログラムは、130 万人の母子に対し、子どもに極めて重要な「人生最初の 1000 日」を支援しています。これに加えて同社はアンゴラ、ギニア、トーゴの保健システムの強化にも貢献しています。

2015 年以来、フィリップス財団とユニセフは、母子の健康改善に焦点を当てたパートナーシップを構築してきました。2018 年、ユニセフとフィリップス・リサーチは、ケニアの 163 の保健施設の状況を評価するソフトウェア・アプリケーションを開発し、同地域における医療の改善に向けたデータを提供しています。

過去 30 年間にわたり、ジョンソン・エンド・ジョンソンは前線で活動する保健員の能力強化と地位向上を通じた保健システムの強化と、母子の健康の向上への取り組みを中心に、20 の国と地域で子どもと家族のためのプログラムを支援してきました。2018 年 11 月、ジョンソン・エンド・ジョンソンは健康の公平性の格差を埋めるためのユニセフの取り組みを支援するために、今後 3 年間で 1,000 万米ドルを拠出することを表明しました。

栄養

子どもたちの命を守り、成長を助ける活動の一環として、ユニセフは 2018 年、栄養価の高い食事を提供し、発育阻害、消耗症、過体重を含むあらゆる形態の栄養不良を予防することに力を注ぎました。特に、ユニセフは以下の支援を行いました。

- 紛争や災害の影響を受け、重度の急性栄養不良に苦しむ子ども 340 万人を治療し、その 88% が回復
- 2 億 5,500 万人以上の子どもに 2 回分のビタミン A サプリメントを提供
- 1,560 万人の子どもに必須ビタミンとミネラルを含む微量栄養素パウダーを提供
- 2,300 万人の養育者に乳児の食事指導を実施
- 74 カ国で大規模な食料の栄養強化プログラムを展開

ユニセフの支援を受けて、56 カ国の政府が幼児期の過体重予防のためのプログラムを実施したほか、108 カ国が幼い子どもの食事の質と多様性を改善するためにプログラムを拡大しました。ユニセフはまた、30 カ国の政府と協力し、青少年の食事の質を改善し、栄養状態を向上させる活動に取り組みました。その結果、5,800 万人以上の十代の少年少女たちが貧血やその他の栄養不良を予防するサービスを受けました。インドでは、4,400 万人以上の青少年が、貧血を予防するための鉄と葉酸の補給プログラムの支援を受けました。

@UNICEF パートナーシップ 2018：栄養

オランダ政府はユニセフの特定分野向け予算の最大の支援国であり、2018 年から 2021 年までの間に救命栄養プログラムのために 5,600 万米ドルを拠出することを表明しています。

ドイツ政府は 2018 年、特にドイツ連邦経済協力開発省（BMZ）の特別イニシアティブである「ONE World - No Hunger」（ワン・ワールド - 飢餓のない世界を目指して）を通じて、東部・南部アフリカでのユニセフの総合的な栄養プログラムへの支援を継続しました。このイニシアティブの一環として、ブルンジ、エチオピア、マラウイ、ソマリアでは、全体で 26 万 7,000 人近くの子どもたちが包括的な栄養援助 を受けられるようになりました。

英国政府は、国際開発省を通じて、イエメンにおける栄養不良の検査、予防および対策を支援するために 7,800 万ポンドを拠出しました。2018 年から 2020 年の間に、この資金は 5 歳未満の約 220 万人の子どもたちの栄養不良の検査と、最も弱い立場にある子どもたち 7 万人の緊急治療を支援することになります。

英国はまた、2018 年に西部・中部アフリカにおけるユニセフの栄養プログラムに対する多国間支援の中で、1,500 万ポンドを提供しました。この栄養プログラムは、幼い子どもの重度の急性栄養不良に対処するとともに、ブルキナファソ、チャド、マリ、モーリタニア、ニジェールの食料システムを強化し、そのレジリエンス（回復力）を構築することを目的としています。

HIV ／エイズ

2017 年末までに、世界の HIV とともに生きる妊産婦 140 万人の 80% が生涯にわたる治療を受けました。この治療率の向上により、2000 年以降、累積で 180 万件の小児 HIV 感染が回避できたことになります。同じ期間に、HIV とともに生きる子どもの治療率は世界全体で 52% に増加しました。母親の治療率が高いのに対し子どもの治療率が低く留まっているのは、ひとつには乳児の HIV 診断へのアクセスが十分でないことから生じたものです。

この治療率のギャップを埋めることを目指し、ユニセフはアフリカの 20 カ国で現場で即時診断できる新しい検査プラットフォームの導入をサポートしています。このアプローチは、HIV とともに生きる女性から生まれた新生児が生後 2 カ月以内に検査を受ける割合を増加させることで、抗レトロウイルス治療を受ける乳児の数を増やすことを目的としています。2018 年には、7 万件以上の現場で即時診断できる HIV 検査が実施されました。

ユニセフが HIV に関する集中的な取り組みに向けて指定した 35 カ国のほぼすべてで、若者への予防支援の拡大が見られます。

例えばタンザニアにおいて、ユニセフはタンザニア社会行動基金およびタンザニアエイズ委員会との協力の下、14 歳から 19 歳の青少年に対して、社会保障、経済的な能力強化と支援、HIV と性および妊娠についての知識向上や意図しない妊娠を予防するリプロダクティブ・ヘルス教育を組み合わせた支援を実施しています。

下：コンゴ民主共和国で、一軒一軒の家を回り、出生前ケアの奨励と栄養不良や HIV に関する啓発を行う地域の保健員マドレーヌ・カボンディアさん（左）。
© UNICEF/UN0271278/Tremeau

@UNICEF パートナーシップ 2018：HIV/AIDS

バルセロナ財団は年間 200 万ユーロの寄付を行っており、スポーツを通じて子どもの教育を促進するユニセフのプログラムを支援しています。

同財団はこれまでに 150 万人以上の子どもに質の高い教育、スポーツ、遊びへのアクセスを提供し、これらの活動は政策の変更と学習成果の改善へもつながっています。

2018 年、バルセロナ財団は、開発プログラムのためのスポーツの枠組みを確立することを目標としたグローバル・ワーキンググループの立ち上げをサポートしました。

同財団はまた、ユニセフ・イノチェンティ研究所と連携して、革新的な研究を支援することにも同意しました。このパートナーシップは、スポーツを通じた開発プログラムへの理解を深め、子どもたちへの成果を確立することを目指しています。

インドネシアで起きた津波においても、バルセロナ財団はユニセフの緊急支援に協力しました。財団の貢献により、子どもたちを暴力から守り、安全な水と衛生設備（トイレ）、衛生習慣へのアクセスを提供することができました。

もたらされた変化

サバちゃんがイエメンの治療センターに到着したとき、その幼い命は危険に晒されていました。彼女は重度の急性栄養不良に加え、発熱と下痢の合併症に苦しんでいました。センターで３日ほど過ごすと、サバちゃんの健康状態は徐々に改善し始めました。彼女が元気になると、医療スタッフが彼女の体重と健康状態を把握できるように、外来診療所を紹介されました。戦争と経済危機によって、イエメン全体で何千人もの子どもが栄養不良の危険に晒されており、サバちゃんのような子どもたちは命と健康の危機に直面しています。彼女がケアを受けたユニセフが支援する治療センターは、栄養不良の子どもたちを治療するとともに、家族に栄養と衛生に関する指導を行っています。

Top: © UNICEF/UN0276450/Almahbashi　Above: © UNICEF

乳幼児期の子どもの発達

ユニセフは、乳幼児期の子どもの発達（ECD）を活動の中心に据えてきました。2018 年、ユニセフとアルゼンチン政府を含むパートナーによるアドボカシー活動は、乳幼児期の子どもの発達のための G20 イニシアティブの策定に貢献しました。

80 カ国が ECD のためのサービスの提供を制度化し、乳幼児期における刺激と応答的保育（子どもの表情や動作を保護者・保育者が受けとめ反応していく保育）の取り組みのために最低 2 つ以上の支援を実施する、複数部門の ECD プログラムを採用しています。これら 80 カ国のうち、33 カ国が ECD のためのシステムを確立しており、47 カ国が近い将来規模を拡大する可能性を示しています。

人道的状況

ユニセフは、人道危機下において目標分野 1 におけるさまざまな支援を展開しています。

2018 年、ユニセフは世界で最も困難な状況の中で 87 件の保健上の緊急事態や感染症の集団発生に対応し、人道危機下にある 1,960 万人の子どもへはしかワクチン接種を支援しました。また、少なくとも 14 カ国においてコレラの集団発生に対応し、その予防に向けて前進しました。

コンゴ民主共和国でのエボラ出血熱の集団発生に対応して、ユニセフとパートナーは、北キブ州、イトゥリ州、エクアトゥール州で啓発活動とコミュニティへの働きかけによるリスク対策を実施しました。この対応は、エボラに関する認識を高め、誤解を防ぐことを目的としています。960 万人がこの活動に参加しました。2 万 5,000 人の地元のリーダーたちに加え前線で活動する 1 万 5,000 人の保健員を動員し、113 のラジオ局で 4 つの言語で9万回に及ぶ放送を実施しました。

これらの危機対応中に行われた複数の調査では、対象地域のエボラに関する知識が大幅に増加したことが明らかになりました。

実行能力の強化

目標分野 1 の活動においては、保健システムの大規模な改善・強化へのニーズが増していたことに合わせて、スタッフとパートナーの能力を高めていくことが大きな課題の一つになりました。

このニーズに応えるためユニセフは、分析能力、データの利用、分野別計画策定、政策対話、分野横断的なサポートの調整など、いくつかの分野における能力強化に向けた新たな取り組みに投資してきました。

@UNICEF アドボカシー 2018: # はじめが肝心

2018 年には、乳幼児期の子どもの発達（ECD）キャンペーンによって組織された父の日の取り組みにおよそ 125 のユニセフ現地事務所と各国のユニセフ協会が参加しました。この数は 2017 年の 108 件から増加しています。9 月に同キャンペーンはニュージーランドユニセフ協会との協力の下、ニュージーランドのジャシンダ・アーダーン首相とユニセフのヘンリエッタ・フォア事務局長がニューヨークで開かれたソーシャルグッド・サミット（Social Good Summit）に並んで登壇。両氏はこのサミットにおいて公的機関や民間企業における家族にやさしい政策づくりを提唱しました。さらに G20 サミットでは、乳幼児期の子どもの発達が初めて議題になりました。これは、乳幼児期の学習と外的刺激の重要性に関する世界での認識の高まりを反映しています。